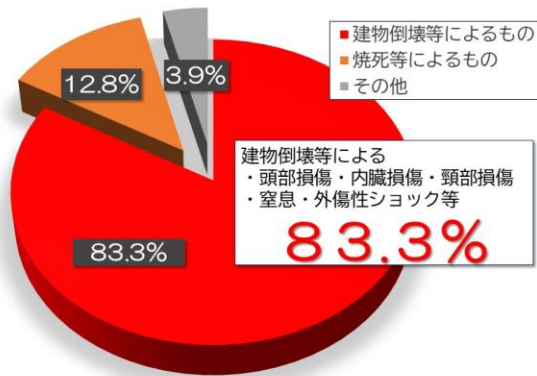


# かならず来ます！京都の大地震



平成7年（1995年）阪神淡路大震災 写真提供：神戸市

## 死亡原因のほとんどは圧死！

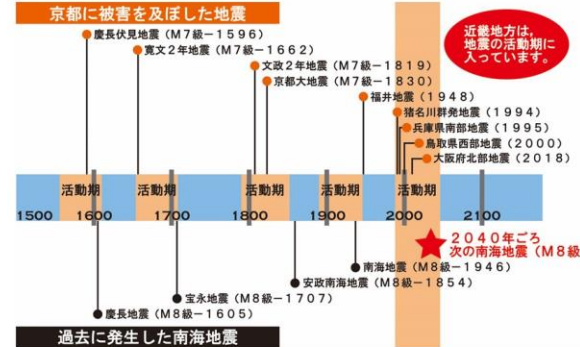


出展：「神戸市内における検死統計」（兵庫県監察医，平成7年）

阪神・淡路大震災は、京都で甚大な被害を及ぼすことが想定される地震と同じ直下型地震。そこでの死者は6,434人（関連死者数910人を含む）、負傷者は43,792人にのびりました。この死者の83.3%が、建物や家具の倒壊による窒息死・圧死でした。

大地震は、いつどこで起きてもおかしくありません。できるところから、すまいの耐震化を進めましょう。

## 近畿地方は地震の活動期に突入

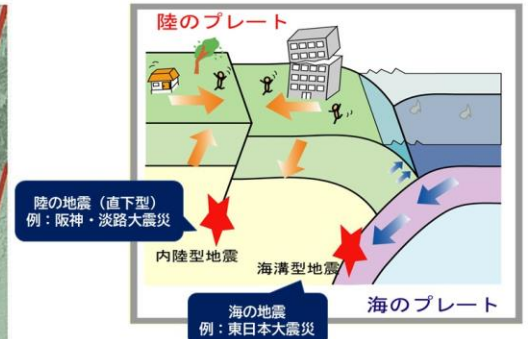
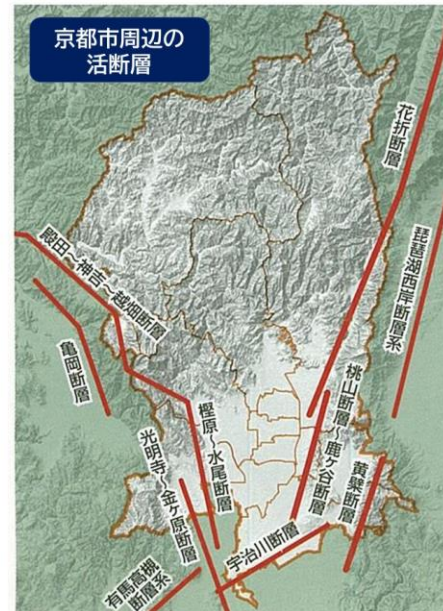


南海・東南海地震の約60年前から約10年後までが、内部の活断層による地震が起こりやすい活動期になります。1948年の福井地震の後、比較のおだやかな期間が続いていましたが、1995年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や2000年の鳥取県西部地震、2018年の大阪府北部地震などが続いて起こり、近畿地方は地震の活動期に入ったと考えられています。

出展：京都市地震ハザードマップ

次の南海・東南海地震の発生は、2040年頃と予測されており、あと約30～40年間は頻繁に地震が起こるといわれています。

## 活断層で囲まれる京都盆地



南海・東南海地震は、近い将来確実に起きると予測され、ゆっさゆっさという大きな揺れが数分間続いて、地盤の弱いところでは液化化が起きる可能性があります。

内陸型地震は、突き上げるような強烈な揺れが一気におそい、一旦発生すると京都市内に甚大な被害を及ぼすことが想定されています。

出展：京都市地震ハザードマップ

# 地震に耐え、いのちを守る家に！

## このような建物は、特に注意！

### ■ 昭和56年(1981年)以前に建てられた建物 【旧耐震の建物】

昭和56年に、建築基準法の構造に関する規定が大きく改正されました。過去の大地震においても、旧耐震の建物に大きな被害が見られました。



### ■ 平面の形状バランスが悪い建物

L字型の住宅や、極端に細長い住宅といった平面形状が不安定な建物は、注意が必要です。



### ■ 補修が不十分で老朽化している建物

建物が老朽化していると、建物本来の性能が発揮されず、大地震の際に被害がより大きくなる可能性があります。



## まずは、すまいの健全化！



- 【工事例】
- 土台・柱の修繕
  - 土壁の修繕 等



建った時の  
状態に戻す

## すまいの耐震化の3ステップ

ステップ 1

### 耐震診断

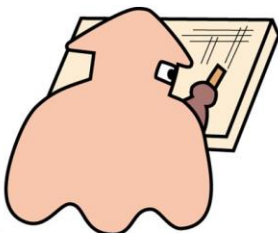
地震に対するすまいの弱点を調べ、耐震改修が必要かどうか判断します。



ステップ 2

### 耐震改修の内容の検討

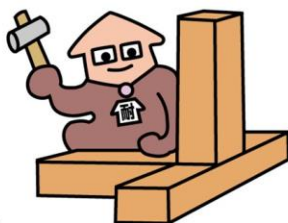
耐震性を上げるために、どのような工事を行うか専門家と一緒に検討しましょう。



ステップ 3

### 耐震改修工事

様々な耐震改修の手法があります。状況に合わせた工法を選択しましょう。



## つぎに、すまいの耐震補強！

屋根を軽くする

壁をバランスよく設置する



地震に強い建物にする



【工事例】

- 屋根を軽くする
- バランスよく耐震壁を設置する
- 柱の足元がバラバラにならないように根がらみを設置する
- 耐震シェルターを設置する 等
- 2階床面、小屋裏を固める
- 鉄筋コンクリートの基礎を増やす